

平成29（2017）年度 事業活動報告・活動計算書

（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

認定特定非営利活動法人 全国盲導犬施設連合会

事業活動結果



全国の盲導犬訓練施設の連合体として、「ともに生きる、ともに歩む」を共通の理念に、盲導犬を使用し視覚障害者が自立と社会参加を図れるよう、広く盲導犬の普及啓発、相談、加盟施設の行う盲導犬無償貸与事業への助成等を実施した。

1. 普及啓発事業

- 1) 広報誌デュエット26号18万部、ポスター7千枚を作成配布、並びに店舗等の入口に貼る補助犬同伴可ステッカーを配布した。
また、ポスターに関しては、従来よりも一回り大きいサイズ（B2）を別途400部作成した。
- 2) 視覚障害者向け盲導犬情報（点字版、墨字版、CD版）を2回（9月19号、3月20号）発行し、盲導犬ユーザー、点字図書館、盲導犬育成施設、都道府県視覚障害者担当部局などに配布した。
- 3) 盲導犬受入促進に向け、補助犬同伴可ステッカー貼付を希望する店舗等へ本年度から無償配布とした。
- 4) 卓上成犬募金箱に備え付けのリーフレット3,000部を刷新した。
- 5) 大手スーパーに設置している等身大盲導犬募金箱について、8台の新規導入、10台の修理入替を行い、募金額の増額に努めた。
- 6) 啓発イベント（盲導犬ふれあい教室等）を全国で合計49回実施した。
- 7) パトラッシュ基金では、ベルギー大使館でのイベント「in東京散歩2017」に参加、募金箱設置企業でのイベントに参加するとともに、グッズ制作に協力した。
- 8) 寄附・募金箱設置協力企業へ、良い機会を捉えて感謝状を贈呈した。
- 9) 例年通り、連合会オリジナル盲導犬カレンダーを作成し、寄附者や関係各所へ配布し、盲導犬事業への理解と支援、普及に努めた。



2. 相談室事業

- 1) 盲導犬貸与希望、入店拒否、ユーザー相談、事業者・市民相談など177件を受付対応し、育成訓練施設に照会して、助言、調査回答等により各種問い合わせへの解決を図った。
- 2) 駅ホームで盲導犬を蹴っている動画がネット上で拡散した件について、
①国内全ての盲導犬育成団体に当該盲導犬使用者と盲導犬の所属の有無について調査依頼を行った。
②本件の調査結果及び全国盲導犬施設連合会としての見解を10月12日声明文として公開した。
- 3) 盲導犬ユーザーへのクレーム通報について、苦情解決対応フローチャートに沿って各施設と連携して是正等を通報者に回答した他、盲導犬に対する理解を求めた。



3. 資格認定事業

- 盲導犬歩行指導員2名を資格認定審査要綱に則り、以下のとおり知識・技能を確認し、資格を認定した。
- ・前年度実技審査の追試（1名）を5月に実施
 - ・学科習得確認テストを各施設で8月と1月に実施
 - ・実技審査会を、2月の盲導犬育成ジャパンセミナー会場にて実施
 - ・盲導犬歩行指導員受験者面接を2月実施
 - ・資格認定委員会を4月、5月、10月、12月、3月の5回開催し、5月 追試1名を、3月 本年度2名を合格判定
 - ・理事会に本年度資格認定者付議 10月、3月

4. 研修事業

資格認定申込者を対象にしたスクーリングを、第3回盲導犬育成ジャパンセミナープログラムに組み込み、歩行指導員受験者は研究テーマの発表を、訓練士受験者はセミナー全期間参加により研修習得とした。

5. 使用者団体との相互協力事業

全日本盲導犬使用者の会(全犬使会) 総会及び交流会へ近接地域の加盟施設職員を派遣し、サポートを行った。

6. 情報交換及びネットワーク構築事業

- 1) 各訓練施設の責任者全員による運営委員会を5回開催し、盲導犬の育成訓練と普及、事業に係る諸課題について協議した。
- 2) 2月7日～8日の2日間、(公財)日本盲導犬協会神奈川訓練センターに於いて第3回盲導犬育成ジャパンセミナーを開催した。

- 3) 平成28年度（2016）盲導犬訓練施設年次報告書「(社福)日本盲人社会福祉施設協議会編」の印刷と関係部署へ発送を行った。
※平成30年3月末日現在、国内の盲導犬実働数は941頭。国内の指定法人全11団体が平成29年度中に育成した盲導犬の頭数は139頭。内訳は、新しく盲導犬ユーザーのパートナーとなった盲導犬は48頭、2頭目以降の代替犬は91頭。
- 4) ANAによる盲導犬割引輸送協力利用の実績は35回であった。
- 5) 日本自動車販売協会連合会（自販連）盲導犬公益信託にかかる盲導犬無償貸与について、本年度は4頭を推薦し、それぞれ助成を受けた。
- 6) かねてより国土交通省自動車局旅客課に要請していた、盲導犬使用者のバス乗車時における犬用口輪の携帯免除乗車について、乗車時の口輪携帯について定めた通達を8月25日付けで廃止したとの連絡を受けた。
- 7) 駅ホームで盲導犬を蹴っている動画がネット上で拡散した件について、10月10日に国家公安委員会、厚生労働省へ赴き、調査結果とこれまでの状況を報告した。
- 8) 3月15日、2020パラリンピックに向けた『国内外の身体障害者補助犬使用者への対応に関する調査研究』報告会に出席し、加盟施設へ報告会内容の情報提供を行った。

7. 財政基盤支援事業

- 1) 盲導犬の無償貸与と促進を図るため、加盟施設が実施する盲導犬無償貸与にかかる費用の一部助成（1頭200万円）として、一般会計から連合会助成として各施設に盲導犬17頭分を行なった。
- 2) 特定資産積立金取り崩しによる盲導犬無償貸与補助については、申請のあった7頭分について執行役員会で審査し取り崩し補助を行った。

8. 調査研究事業

良質な仔犬（盲導犬候補犬）確保に向けた繁殖方法について、引き続きAGBNへ盲導犬改良システムの構築の業務委託を行った。

9. 国際交流事業

本年度は国際盲導犬連盟（IGDF）セミナー開催年度ではなかったが、IGDFから加盟施設へ送付されたISO取得に関する書面の翻訳料を負担した。

10. 顕彰事業

本年度退任した理事（副理事長）へ、表彰状と記念品の贈呈を行った。

活動計算書

（単位：円）

1) 収益の部		決算額
大科目	中科目	
受取会費	正会員受取会費	800,000
	計	800,000
受取寄附金	個人寄附金	12,372,410
	団体・法人寄附金	6,801,766
	特別寄附金	21,133,208
	募金	60,611,892
	その他募金	19,472
	計	100,938,748
その他収益	受取利息	19,434
	ステッカー収入	15,800
	有価証券売却益	84,213
	指定正味財産振替額	14,000,000
	計	14,119,447
経常収益計		115,858,195
2) 費用の部		決算額
大科目	中科目	
事業費	人件費	24,042,147
	普及啓発事業費	11,456,240
	相談室事業費	676,562
	資格認定事業費	1,255,233
	研修事業費	91,113
	使用者団体相互協力事業費	284,303
	情報交換・ネットワーク事業費	3,564,462
	財政基盤支援事業費	48,007,558
	調査研究事業費	3,078,604
	国際交流事業費	27,192
	顕彰事業費	45,333
	計	92,528,747
管理費	人件費	4,187,542
	その他管理費	4,661,935
	計	8,849,477
経常費用計		101,378,224
当期経常増減額		14,479,971